

## 37 華岡青洲門人・小田順亭（魯庵）の墓誌銘の原史料と 毛利空桑全集収載の二次史料の内容

金谷 貢<sup>1)</sup>，金谷 桂子<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>新潟大学大学院医歯学総合研究科 生体組織再生工学分野，<sup>2)</sup>周明館 新潟

【はじめに】華岡青洲の門人である、豊後国日出藩の小田順亭が華岡流麻酔法を用いて行った手術の事例を演者らは発掘し、本会雑誌に論文として公表した。また、帆足萬里門人・小田魯庵が小田順亭と同一人物である証拠を発見し、昨年度の本会学術大会で発表した。

しかし、小田順亭（魯庵）の事績については、充分かつ正確に明らかになっているとは未だ言えない。今回は、小田順亭（魯庵）の事績に関する重要な史料である墓誌銘について、その原史料（一次史料）を基に、正確さを期してその内容を報告する。また、『毛利空桑全集』（以下、『全集』）収載の「小田子順墓誌銘」（二次史料）の誤字脱字についても報告する。

【小田順亭（魯庵）の「墓誌銘」の原史料（一次史料）と『毛利空桑全集』の「小田子順墓誌銘」（二次史料）について】大分県日出町松屋寺にある彼の墓の竿石に刻まれている「正面文字」，「墓誌銘」について、『全集』の「小田子順墓誌銘」を一部参考にして、原史料にできるだけ近い字体で活字化したものを以下に示す（各面の名称は竿石を人体と同様に見たてた場合の名称。／は原史料の改行箇所）。「小田子順墓誌銘」（二次史料）の誤字脱字もあわせて示す。

正面 魯田先生之墓

右側面 明治四年三月二日友人日出藩小田君子順卒享年六十三／其嗣其徒買石表其墓儉涕爲之辭曰君諱健字子順以魯菴／行魯田通貞亦其號也其先清原少納言正高自京來選藩山／香高取村而居爲三世孫良亭始業疾醫五世孫良珉技精治／刃君<sup>1)</sup>其冢<sup>2)</sup>子也幼從帆足先生講明詩書等倫以其真率犬豚／視之先生曰冢<sup>3)</sup>他日必有名矣年<sup>4)</sup>二十三使去從紀伊塲科華／岡氏淬勵五年轉入京撰從産科香川與二氏亦得其秘訣從／無常師唯其異能學而不倦歸卜居八阪中<sup>5)</sup>平村治有奇効名

背面 夷遐<sup>6)</sup>遠徒與日加請治者晝夜陸屬余嘗過之驗其實實相副／也嘉永元年城主寝痔漏劇証先生力請乃令君運刀君積褐／階下土城主果痊而東於是乎名益夷治益富安政四年階中／士慶應二年退休寓(居)<sup>7)</sup>別府極樂菴優游自適旁爲醫事請者亦／復雲屯君土芥財賄客至輒譏極驩而後罷否則不肯首其去／狂叫疾走擁樹而坐不幸罹疾治任婦養遂不起君娶立石／藩後藤氏醇謹無子養杵築藩松原氏之女尋養藩士佐藤氏／之男以配今嗣葬君於松屋寺中浮屠名曰祿壽院嘯巖魯菴／居士高足山下生來請<sup>8)</sup>儉辭君兄待儉義不可虛銘曰

左側面 帆翁古君子儒君爲其所知遇可謂士林芬華儉亦幸免諛／墓（約10字分の余白あり）小天下樓主毛利儉撰并書<sup>9)</sup>／世益衰道益蕪人益貪唯龍斷是私以爲至矣盡矣莫以加矣／於是乎或叛其父兄自逞不養或賣其師友視猶茶毒今魯田／之徒與其嗣謀揮金爲碑何其篤義<sup>10)</sup>之至此也想魯田爲帆翁／所知力学有成故其徒亦皆仰事猶其在日也可謂有斯師而／後有斯徒矣余欲夫人知之以自修勵因贅録於碑陰白處

1, 4, 5, 8, 9, 10)『全集』では「君」，「年」，「中」，「請」，「小天下樓主毛利儉撰并書」，「義」が欠落している。2)『全集』では「冢（モウ，等）意味：おお-う， くらい，等」となっているが、『新字源改訂新版』に「冢子（ちょうし）①太子。世子。②長子。あとつぎの長男。」とあり，意味として適するので，「冢（冢は別字」とある）が適当と考えられる。3)『全集』では「冢（ブ，ム）意味：な-い，な-かれ，等」と読み取れる文字があてられているが，この場合，「冢（カン）意味：つらぬ-く，等（冢は別字」とある）」（『新字源改訂新版』）が適当と考えられる。6)『全集』では「避」となっているが、『大字源』に「遐遠（かえん）はるかに遠いこと。」とあり，意味として適するので，「遐」が適当と考えられる。7)『全集』では原史料にない「居」が入っている。

以上、『全集』収載の「小田子順墓誌銘」（二次史料）には，誤字が3字，脱字が16字（11字のままとまった脱字を含む），余分な文字の挿入が1字見られた。